

鳥取県福祉研究学会第13回研究発表会 発表要旨等一覧 R2. 2. 4現在

口述発表（会場：鳥取看護大学2階K-201～206）

○=当日発表者

分野	分野 No.	分科会場	発表時間	研究代表者所属団体等	発表者氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
高齢 （施設系A）	①	2階 K-201	10:20～ 10:40	社会福祉法人こうほうえん 介護老人福祉施設 新いなば幸朋苑	土海 千晶	生活歴を知ることから始まった意欲向上への取り組み	A氏は社交的だが活動によって消極的になることがある。日頃、意欲や興味を活かした活動の場は少なく、職員の対応もその場限りなものが多い。DCMやセンター方式のB-3・D-4シートを活用し、A氏の不安や安心・楽しいという思いに着目し、ケアの向上・興味のある活動作りに取り組み、意欲向上に繋がった事例を報告する。	土海 千晶
	②	2階 K-201	10:45～ 11:05	社会福祉法人あすなる会 わかさ・あすなる	佃 孝明	「下剤に頼らない排便を目指して」 —食物繊維にも色々あるらしい—	昨年度の事例研究では、水溶性食物繊維を食事に添加することで「できるだけ下剤に頼らない排便コントロール」を目指し一定の成果はあったものの、課題も残されていた。その後グアー豆酵素分解物が配合されたものの方が便秘解消効果が高いことを学んだことから、提供する製品を変更し、「水溶性食物繊維の種類によって効果に違いはあるのか?」、「長期的に使用を継続した場合、効き目に変化は現れるのか?」という2つの疑問を検証した実践を報告する。	○佃 孝明 太田 祐介 佐藤 有紀子 大野 和美 石原 絵里子 山内 誠広
	③	2階 K-201	11:10～ 11:30	医療法人・社会福祉法人真誠会 介護老人福祉施設 ピースポート	大東 滉季	興味関心チェックシートを用いた利用者支援 外出支援と個人レクリエーション	利用者のしてみたい事や興味がある事を実現することで、認知症状の改善や利用者の生きがい作りと行動性の向上が図れるのではないかと考え、介護福祉士の視点から興味関心チェックシートを用いて、一利用者に利用者支援を実施した事例	○大東 滉季 菅原 静香 吉岡 宏 細川 祥恵
	④	2階 K-201	11:35～ 11:55	社会福祉法人やず 特別養護老人ホームすこやか	宮本 麻里奈	福祉用具のある生活 ～すこやかなの当たり前を見直そう～	介護する側、される側の身体的負担の軽減、安全なケアの提供を目的に、福祉用具を活用したノーリフティングへの取り組み。	春摘 暢仁 ○平木 英樹 ○宮本 麻里奈
	⑤	2階 K-201	13:00～ 13:20	社会福祉法人鳥取福祉会 養護老人ホーム鳥取市なごみ苑	山崎 剛	もしもの時のためにできること ～さいごまで自分らしく豊かな人生のために～ （アドバンス・ケア・プランニング）	利用者により良い最期を迎えていただくために、利用者が元気な内に前もって家族や関係者と一緒に考える「意思表示の機会」を設ける必要があった。その想いを繋ぐツールとして、ACPの導入に取り組んだ成果を発表する。	○山崎 剛 ○砂場 博斗

分野	分野 No.	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
高齢 (施設系 B)	⑥	2階 K-206	10:20～ 10:40	社会福祉法人敬仁会 介護老人福祉施設ル・ ソラリオン	宮本 和幸	利用者の「こえ」を聴く ～3つの事例より学んだ こと～	直接の関わりから得られる「こえ」や、家族との関係や生活歴 から得られる情報をケアに活かしていく。	○宮本 和幸 ○青山 健一 三崎 三紀 佐藤 栄里子
	⑦	2階 K-206	10:45～ 11:05	社会福祉法人賛幸会 特別養護老人ホームの ではまゆう	竹内 奈保	顎バンドが外れたよ ～全盲のA氏に対する関 わり方と変化～	全盲と下顎脱臼を繰り返す入居者A氏は常時顎バンドを装着し ていた。栄養状態も悪く活気のないA氏に対し、特徴を考慮し た関わり方や取り組みを行った結果、体重増加や栄養状態の改 善と意欲向上がみられた。さらに顎バンドを外して生活を送る 事ができるようになった。	○竹内 奈保 秋吉 梨花 山本 和恵 村上 史 霜村 まどか
	⑧	2階 K-206	11:10～ 11:30	社会福祉法人福生会 三朝温泉三喜苑	清山 茜	褥瘡ができるには訳があ る！ ～当たり前の事ができれ ば褥瘡は防げる～	施設の現状を把握し、褥瘡ができる原因を多方面から探り、褥 瘡ゼロに向けてチームで取り組んだ結果の報告です。特に体圧 測定を実施したことで、圧を見える化でき、他職種にも情報を 共有しやすくなった事が、褥瘡改善につながりました。	高塚 祐亮 ○清山 茜 池本 真一
	⑨	2階 K-206	11:35～ 11:55	社会福祉法人あすなる 会 岩井あすなる	湊 承子	「私たちはあなたのこと をわかりたい」 ～このコミュニケーション は正解ですか？認知症 ケアについて～	認知症の症状のある利用者が多く入所されている当施設の利用 者へのケアは、認知症への理解不足が課題として挙げた。認 知症委員をはじめとする介護職員の認知症への知識・技術のレ ベルアップを図るひとつの手段としてコミュニケーションが重 要であると考えた。利用者それぞれに合わせたコミュニケー ションを図ることで利用者のことを理解できるように委員会 で取り組んだ実践の報告をする。	○湊 承子 小谷 裕子 熊中 裕司 藪中 剛 荒賀 英幸 田中 智之 西浦 華子

分野	分野 No.	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
高齢 (在宅系)	①	2階 K-205	10:20～ 10:40	社会福祉法人あすなる 会 高草あすなる居宅介護 支援センター	河本 奈緒	ケアマネジャー定時に帰 ります！ ～働き方改革における業 務改善～	2018年度のケアマネ受験者数は前年度より4割弱少ないことが 分かった。新聞記事においても、ケアマネの志望者数が激減し ていることを知り、ケアマネジャーのイメージ払拭を図ること が必要だと感じた。アンケートを実施すると、ケアマネジャー が遅くまで仕事をしているとの回答が多く、業務改善を行い、 定時に帰ることでイメージアップをし、受験者数の増加につな げていきたい。	○河本 奈緒 ○遠藤 洋介
	②	2階 K-205	10:45～ 11:05	鳥取県介護支援専門員 連絡協議会中部支部	山根 宏司	「お薬を正しく飲んでい ますか」 ～要介護高齢者の服薬管 理における現状と課題～	服薬管理を課題としている高齢者は多い。居宅介護支援事業 所、地域包括支援センター所属の介護支援専門員を対象にアン ケートを実施し、服薬管理における課題や支援状況の把握を 行った。結果をもとに今後の課題や取り組みの検証を行った。	○山根 宏司 田中 恵理 藤井 太陽
	③	2階 K-205	11:10～ 11:30	社会医療法人明和会医 療福祉センター渡辺病 院	徳田 裕一	認知症の人への支援者か らパートナーへ ～当事者の体験を聴く経 験から得た援助観の変化 ～	認知症本人ミーティングでの本人同士の語り合いから受けた援 助観への影響を、県内4カ所の認知症疾患医療センターの精神 保健福祉士がグループインタビューによる質的検討、認知症本 人を交えて考察した。	○徳田 裕一 吉川 敦 飯田 真穂 小笹 容子
	④	2階 K-205	11:35～ 11:55	北栄町役場	池田 伸夫	しよいや！しよいや！中 部在宅医療・介護連携	医療・介護の関係機関・多職種の協働により在宅医療・介護を 一体的に提供できる中部圏域の体制を構築するために取組んだ ことを発表します。	○池田 伸夫 牧田 憲一 向井 聖子 川崎 明美 田中 理美 圓山 千嘉子 鈴木 萌 川本 かづ代

分野	分野 No.	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
障がい児・者福祉	①	2階 K-202	10:20～ 10:40	社会福祉法人敬仁会 障がい者支援施設 敬仁 会館 ワークサポートあした ば	林 加奈子	目指せ工賃UP！鳥取県 産商品ここに誕生 ～地元鳥取の力で商品誕 生～	工賃UPを目指す為、鳥取県産にとことんこだわり、商品開発 から誕生までのエピソード	○林 加奈子 野田 真司 市村 卓也
	②	2階 K-202	10:45～ 11:05	社会福祉法人敬仁会 介護老人福祉施設ル・ ソラリオン	山本 岳人	共に働く ～障がい者雇用定着に向 けての取り組み～	厨房における障がい者雇用の可能性と雇用の定着を目指した取 り組みと現在までの状況を報告。	○山本 岳人 ○永井 弘子
	③	2階 K-202	11:10～ 11:30	社会福祉法人もみの木 福祉会	木村 和人	構造化を用いた本人の理 解に対する支援	「こだわりの強い方」「言葉での意思疎通が困難な方」への構 造化の効果の検証	木村 和人 施設入所支援部一 同
	④	2階 K-202	11:35～ 11:55	鳥取厚生事業団羽合ひ かり園	井口 賢一郎	強度行動障がいのある方 への支援 ～地域における支援体制 を考える～	強度行動障がいのある方への支援は、1990年代にはその基本的 枠組みが形成されたが、その枠組みに沿った対応を継続するこ とや地域移行が難しいとの報告がある。本研究では、3事例を 通じて、強度行動障がいの方への基本的な支援の枠組みについ て実施の実態を振り返ると共に、支援及び地域移行の困難点を 検討し、強度行動障がいのある方への支援体制について展望を 図る。	○井口 賢一郎 門岡 徹 橋本 真吾 山内 駿二
	⑤	2階 K-202	13:00～ 13:20	鳥取厚生事業団鹿野第 二かちみ園	森本 健太	感情表現や意思表示を促 す取り組み	対象者は、重度の知的障がいがあり、人にほとんど興味がな い、表情も乏しい、全てに受け身がちな御利用者で不適切行動 として異食（主に木の枝）があった方です。まず始めに、異食 防止のために行ったこれまでの取り組みとその成果について報 告します。次に異食防止の取り組みを行っていく中で新たに表 出した接触行動（ここでは「トントン行動」といいます）に対 する分析、そして同じくこれまでほとんど無かった笑顔や ちょっとした意思表示が見られるようになったことに着目し て、自己決定、自己選択に繋げていった約3年半の取り組みに ついて報告します。	○森本 健太 ○鈴木 聡
	⑥	2階 K-202	13:25～ 13:45	鳥取県立総合療育セン ター	山崎 さと子	親子通園における家族支 援 —ペアレントトレーニン グを導入して—	障がいをもつ未就学児の親子通園において親子の関係性による 問題解決の手段としてペアレントトレーニングを導入した。導 入による効果や今後の取り組みについて報告する。	○山崎 さと子 海老田 美紀子 永本 ゆきみ

分野	分野 No.	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
児童福祉	①	2階 K-203	10:20～ 10:40	社会福祉法人あすなろ 会 久松保育園	中江 和貴子	やさしく たくましく 感性豊かな子 ～心身ともにたくましい 子を育てるための環境づ くり～	子ども一人一人の運動能力と意欲の向上に繋がる環境づくりについて	中江 和貴子
	②	2階 K-203	10:45～ 11:05	社会福祉法人鳥取福祉 会 かんろ保育園	橋本 景子	「発達の気になる子ども のための楽しい感覚・運 動遊びを考える」	「感覚統合」の視点で子どもの感覚の個人差や困り感を理解し、子どもの姿に合わせて感覚統合の遊びを実践する。子どもにもたらす効果や変容をエピソードに記録し考察することで、主体的に遊ぶことのできる子どもや職員の資質向上を目的とする。	橋本 景子
	③	2階 K-203	11:10～ 11:30	社会福祉法人敬仁会 保育所パパール園	家高 恵里	地域資源を活用した保育 の展開について	地域の団体、人材、環境を利用し保育を行った活動報告と、今後の展開について発表します。	○家高 恵里 ○村岡 将範

分野	分野 No.	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
地域福祉	①	2階 K-204	10:20～ 10:40	社会福祉法人伯耆町社会福祉協議会	仲村 玲子	あったかハートおたがいさま事業の取り組みで支え合いの気持ちを育む	あったかハートおたがいさま事業の取り組みで支え合いの活動普及モデルを作るためにモデル地区を選定し、3年間取り組んだ。その活動の中で見えてきた成果と課題について発表する。	仲村 玲子
	②	2階 K-204	10:45～ 11:05	社会福祉法人倉吉市社会福祉協議会	入澤 裕美	住み慣れた地域で自分らしく暮らすための地域づくりとコミュニティワーカーの関わり	誰もが住み慣れた地域で自分らしく元気で生活し、お互いに助け合いのできる地域づくりを進めることをめざし、地域の繋がりの希薄化や地域活動の担い手不足等の課題解決のための自治公民館における取り組みとコミュニティワーカーの働きかけについて考察する。	入澤 裕美
	③	2階 K-204	11:10～ 11:30	鳥取市西地域居場所づくりの会「ほっとカフェの会」	高原 利和	「精神障がい者や家族が安心して暮らせるために」～居場所「ほっとカフェ」の活動をとおして～	地域の精神障がいに対する偏見が現存し、引きこもりの要因となったり、当事者や家族が安心して暮らすことが困難となっている。このようななかで、鳥取市西地域では精神障がい者をはじめとした障がい者や家族及び引きこもりや閉じこもりの者などを対象に居場所を提供し、それらの者の不安感や負担感の軽減を図るとともに社会参加のきっかけづくりとし、さらに地域住民との交流により地域の理解を醸成し、地域住民とともに安心して暮らせる地域づくりをめざしている。今回、「ほっとカフェの会」の活動をふりかえり、評価と課題を分析することにより、今後の活動の推進をはかり精神障がい者や家族が地域住民とともに安心して暮らせる地域づくりについて検討する。	高原 利和
	④	2階 K-204	11:35～ 11:55	鳥取県介護支援専門員連絡協議会中部支部	田中 恵理	いつまで運転できますか？いつまで運転していいですか？～車社会鳥取県中部の高齢者自動車運転に関する困りごとアンケートを通じて考える～	鳥取県介護支援専門員連絡協議会中部支部では、「高齢者の自動車運転に関するアンケート」を実施した。そこで得られた結果の分析・考察と、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすため、今後私たち介護支援専門員に求められる役割や取り組むべきことについて発表したい。	山根 宏司 藤井 太陽 ○田中 恵理
	⑤	2階 K-204	13:00～ 13:20	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会	濱本 義則	鳥取県における「福祉の心を育む教育」の現状～平成30年度実施 福祉に関する意識・実態調査結果より～	鳥取県の学校における福祉教育の取り組みは、昭和28年の八頭町社協「社会福祉事業普及校設置事業」を先駆けに、昭和48年の米子市社協「福祉教育モデル指定事業」以降、県内の小・中・高の全校で、福祉教育＝「福祉の心を育む教育」として実践されてきた。今回で5回目となる調査は、過去4回の調査結果（昭和56年、平成2年、平成12年、平成20年）を踏まえた時代の変遷を見ながら、本県の福祉教育の実践を検証する。	濱本 義則
その他 社会福祉領域	①	2階 K-204	13:25～ 13:45	一般社団法人鳥取県社会福祉士会 権利擁護センターぱあと なほ鳥取	平林 和宏	成年後見制度利用促進法における社会福祉士の役割とは～後見人受任機能の強化を目指して～	少子高齢化社会を迎え、高齢や障がい等により判断能力が低下し、成年後見制度の利用が必要な方が増えることが予測されている。しかしその一方で、それだけのニーズに対応できるだけの担い手となる後見人が不足している現状がある。これらの課題に対し、権利擁護センターぱあとなほ鳥取として、後見人の受任体制の整備、質の向上に向けた取り組みを行うとともに、成年後見制度利用促進法の中で、福祉の専門職としての社会福祉士が担うべき役割は何かについて検証し、考察した。	○平林 和宏 本池 峰 安達美奈子

分野	分野 No.	分科会場	発表 時間	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
ポスター発表（会場：鳥取看護大学1階ロビー）								
ポスター発表		鳥取看護大学 1階ロビー	10:20～ 13:45	医療法人 佐々木医院 介護老人保健施設はま なす	松本 麻子	在宅復帰を目指して	認知症状により、個別でのリハビリテーションの介入が困難であったシングルケースに対して、多職種間でのチームアプローチをより密に行い、機能向上・ADL向上を図り、在宅復帰した症例について報告する。	○松本 麻子 河田 雅美 国谷 真理子 川端 美鈴